

2020年10月1日

損害保険ジャパン株式会社  
SOMPOリスクマネジメント株式会社

## 医療機関向けeラーニング・サービスの提供開始

損害保険ジャパン株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）とSOMPOリスクマネジメント株式会社（取締役社長：桜井 淳一、以下「SOMPOリスク」）は、損保ジャパンの「医師賠償責任保険」に加入する医療機関向けに、『医療安全（Patient Safety/患者安全）』のeラーニング・サービス（名称：『SOMPO PS eラーニング』）を10月1日から提供します。

### 1. 開発の背景

損保ジャパンは、「医師賠償責任保険」の国内初の開発会社であり、国内の約8,400病院のうち60%を超える病院にご加入いただいております。

保険会社として医療事故の解決をサポートするだけでなく、SOMPOリスクとの連携により、医療事故・医療紛争の「防止・軽減」を目的とした研修・啓発について講師派遣を行うなど、年間約500回におよぶ医療安全研修を支援してきました。

そのような中で、医療従事者の皆さまの多忙さや、突発的な患者対応など時間的な制約が多いことから、一度に参集しての医療安全研修の開催が困難であるとの声を多数いただきました。

また、このコロナ禍において、不要不急の移動自粛や3密の回避、院内クラスター発生防止のために感染対策を徹底した少人数による研修会やオンラインによる研修会の開催、または個人学習方式の採用など「ニューノーマルな研修スタイル」が求められていました。

このような環境を踏まえて、損保ジャパンおよびSOMPOリスクは、講師派遣にとられない研修支援の形を実現するために、株式会社日立製作所に協力を求め、3社の協創プロジェクトで検討を重ねてきました。

この度、株式会社日立産業制御ソリューションズのWEB学習システム「作業・安全教育クラウドサービス」を採用して、「動画視聴による集合研修」および「テキスト教材による個人学習」の2つのeラーニング・サービスを低廉なコストでご利用いただける仕組みとして開発し、損保ジャパンの「医師賠償責任保険」に加入するすべての医療機関（病院・診療所問わず）にご提供することとしました。

## 2. サービスの概要 『サービス名：SOMPO PS eラーニング』

医療機関の用途に合わせて選べる2種類のeラーニング・サービスをご用意しました。インターネット接続できるPCやタブレット、スマートフォンで専用サイトにアクセスし、ご利用いただきます。

	グループ版（集合研修用）	パーソナル版（個人学習用）
概要	従来型の研修スタイルである、院内の職員を集めた「集合研修」を想定した動画視聴による学習サービス	職員が時間や場所を問わず、自由に学習できる「個人学習」を想定したテキスト教材による学習サービス
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療安全に精通した著名な講師陣</li><li>・複数開催による研修参加率の向上</li><li>・少人数開催によるコロナ感染防止対策</li><li>・理解度テストデータを提供</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・いつでも、どこでも個人学習可能</li><li>・ウィズ・コロナ時代に適した学習スタイル</li><li>・理解度テストによる受講管理や学習効果の把握が可能</li></ul>
価格	年間*・2つのテーマで6回までの視聴は無料 追加は1つのテーマごとに30,000円(税抜)	年間*・1つのテーマ当たり30,000円(税抜) 初年度(～2021年3月末)は、 <u>3,000円(税抜)</u>

\*年間：「4月1日から翌年3月31日までの期間」を指します。ただし、2020年度は、2020年10月1日～2021年3月31日の期間とします。

## 3. 今後の展開

新型コロナウイルスの感染拡大により、医療機関では業務負荷が増加しており、一方で医療現場では、労働時間の短縮を意識した「働き方改革」も求められています。今回、新たに提供させていただく学習ツールが、各医療機関の取組方針に沿って、効率的かつ柔軟にご活用いただけることを期待しています。

「医師賠償責任保険」の国内初の開発会社、そして引受トップシェア会社である損保ジャパンおよびSOMPOリスクは、今後も各医療機関における医療安全や、患者対応への持続的な取組みに寄り添い、さらなるサービスの充実、コンテンツの拡充を図っていきます。

以上

(参考)「グループ版」コンテンツ一覧 (2020 年度版)

No.	テーマ	抄録・講師
1	医療事故調査の目的と理念	<p>平成 27 年 10 月、多くの議論を経て医療事故調査制度が始まった。事故調査の目的を達成するために、事故調査員や事故調査委員が理解すべき理念について説明する。理念が明確であれば、利害関係のある人の意見の影響を受けにくくなり、迷いが減り、確固たる自分が確立でき、そのために気持ちも楽になることが考えられる。</p> <p>【講師】河野龍太郎 自治医科大学名誉教授、株式会社安全推進研究所 代表取締役所長</p>
2	患者の自己決定権と医療を考える	<p>安楽死、尊厳死については、先般の ALS 患者の安楽死の様な事件が発生する度に問題となってきた。その他、輸血拒否患者の対応など、医療現場で対応に苦慮する問題が散見される。明確な結論を出すことはできない問題であるが、裁判例やガイドラインなどを踏まえ、患者の自己決定権について考えてみよう。</p> <p>【講師】小島 崇宏 (弁護士・医師) 大阪 A &amp; M 法律事務所</p>
3	報告文化を醸成しよう	<p>報告文化とは、自らのエラー等を報告しようという組織の雰囲気である。その組織の報告文化が醸成されているかは、インシデント報告の件数や内容から推測できる。自らの組織の報告文化の度合いを把握するために、あるいは、これを高めるために必要な具体的な事項を提示したい。</p> <p>【講師】浦松 雅史 (医師) 東京医科大学 医療の質・安全管理学分野准教授、同大学病院医療安全管理室副室長及び総合相談・支援センター副センター長</p>

(参考)「パーソナル版」コンテンツ一覧 (2020 年度版)

No.	テーマ	学習内容
1	医療安全とヒューマンエラー	医療安全の基本的な考え方を学ぶとともに、ヒューマンエラーの特性に基づいた防止策の考え方を習得し、医療現場におけるエラー防止に向けた取組みを学びます。
2	裁判例に学ぶ「説明義務」	医師の説明義務に関わる法的位置づけを確認したうえで、医師の説明に関連する裁判例を通じて、患者・家族等への説明方法や説明時のポイントを学びます。
3	裁判例に学ぶ「診療記録(診療録、看護記録等)の重要性」	医療事故裁判での診療録や看護記録等の取扱いや証拠としての役割に関して確認したうえで、実際に裁判で争われた事例を通じて、診療記録記載時に留意すべき事項を学びます。
4	患者・家族とのコミュニケーション	患者・家族と「安心と信頼の関係」を作るために効果的なコミュニケーションのポイントと円滑なコミュニケーションをするためのテクニックについて学習します。
5	苦情対応のポイント	「苦情が発生するメカニズム」を知り、事例を通じて苦情発生の予防方法を学びます。また、苦情やクレームに発展した際の基本的な対応方法を学習します。
6	医療機関における悪質クレーム対策	通常クレームと悪質クレームとの違いやその要求内容、要求方法等を理解し、共感や傾聴等の誠意ある対応では解決できない、悪質クレームへの対応方法を学びます。
7	職員間のコミュニケーション	事例等を通じて、コミュニケーション・エラーが医療事故に直結することを理解するとともに、医療事故やチーム内のトラブルの原因となるコミュニケーション・エラーとエラー回避のポイントを学びます。

No.	テーマ	学習内容
8	医療機関における個人情報保護対策	個人情報保護法改定のポイントを押さえたうえで、医療機関における個人情報漏えい事例を通じて、医療機関で扱う個人情報の重要性とともに、その適切な取扱い方法のポイントを学びます。
9	震災時における診療業務の継続	事業継続計画（BCP）の基礎知識を学ぶとともに、医療機関がBCPを策定（被害想定や非常時優先業務の選定と行動計画の策定、対策の検討）する際に留意すべき事項を学習します。
10	医療機関におけるハラスメント	ハラスメントの定義や類型等の基本知識を習得するとともに具体的な言動例や事例を通して、「ハラスメント」となりうる行為について学びます。さらにそれを防止するための目線や気を付けるべきポイントを学習します。
11	医療事故調査制度の概要	医療事故調査制度の創設背景やその制度の仕組み、改正された医療法や各指針・通知等の内容を再確認したうえで、院内事故調査の留意点（調査の目的、当事者への配慮、公共性の視点等）を学習します。
12	サイバー攻撃の脅威とその対策	サイバー攻撃の発生状況や様々な攻撃手口、国内外において実際に医療機関が狙われたサイバー攻撃事例を学びます。そのうえで、今後、サイバー攻撃を防ぐために医療現場において気を付けるべき事項を学習します。
13	日本医療機能評価機構シリーズ —インスリンに関連した事故—	インスリンに関連した「実際の事故事例」、「その背景・要因」および「事故防止対策のポイント」等の紹介を通じて、インスリン関連事故の特徴やその留意点等を学びます。 ※本学習教材は、日本医療機能評価機構の了解の下、医療事故情報収集等事業から公表されている報告書を参考にして作成しています。
14	日本医療機能評価機構シリーズ —薬剤の疑義照会に関連した事故—	薬剤の疑義照会に関連した「実際の事故事例」、「その背景・要因」および「事故防止対策のポイント」等の紹介を通じて、疑義照会関連事故の特徴やその留意点等を学びます。 ※本学習教材は、日本医療機能評価機構の了解の下、医療事故情報収集等事業から公表されている報告書を参考にして作成しています。